

## 山田尚勇先生を悼んで

米澤 明憲 (情報理工学系研究科  
コンピュータ科学専攻 教授)

私は 1989 年 10 月に当時の理学部情報科学科に、東京工業大学の情報科学科から転任してきました。この学科には、後藤英一先生、米田信夫先生、国井利泰先生、その後理学部長になられた益田先生と、山田尚勇先生が教授としておられ、そのもっとも若年の仲間の一人として迎えられました。山田先生は、後藤先生と同年齢で、当時米国で計算機を研究するものなら誰でも知っているよい仕事をされ、後藤先生が米国から礼を尽くして理学部に迎えられたと伺っていました。それもそのはず、山田先生の仕事というのは、情報科学において必修である「オートマトンと形式言語」の勉強をすると必ずぶつかる Mcnaughton &

Yamada の定理というのがありますが、その Yamada の定理なのです。定理は正則言語と非決定性有限オートマトンが受理する言語が等価であることを証明したものです。これはこの分野の初期のたいへん重要で綺麗な定理と知られたものです。

このように著名な山田先生、パラメトロン計算機の発明者である後藤先生、それにカテゴリー理論の中でたいへん重要な役割をする Yoneda' s Lemma を証明された米田先生らがいらっしゃる、理学部情報科学科に呼んでいただいたのは、私にはたいへん名誉なことでしたが、米田先生、後藤先生が次々とお若くして故人とになられ上に、このたびは山田尚勇先生が 5 月 18 日に 77 歳の若さで鬼籍に入られたのは、誠に悲しい限りです。

私が接しさせていただいた、山田先生はたいへん言語明瞭な方で、日本に戻られてからは日本語の入力法については



■ 故・山田尚勇名誉教授

集中的にご研究され、2 ストロークで当用漢字を含む日本語をきわめて効率よく入力する方式を提案され、それを実用に供するために大きな功績を残されました。なぜ、日本語の効率良い入力法を研究するのかという、山田先生の説明は、今でも私の耳に鮮明に残っています。先生のご冥福を、深くお祈りしたいと存じます。

## 追悼 野上耀三先生

早野 龍五 (物理学専攻 教授)

本学名誉教授、野上耀三先生 (物理学専攻) は、2008 年 6 月 12 日にご逝去されました。享年 90 才でした。

先生は東京帝国大学工学部機械学科から海軍技術研究所に徴用されて終戦を迎えられたのち、1949 年に東京大学理学部物理学科を卒業され、嵯峨根亮吉先生 (長岡半太郎先生の五男) の研究室で原子核物理を学ばれました。まだ GHQ が原子エネルギー分野における研究を全面的に禁止していた時代です (禁止は 1952 年にサイクロトロンが発明者であるローレンスが来日し、小さな加速器ぐらいなら構わないのではないかと GHQ に助言するまで続きました)。

野上先生はその後東京大学理学部助手、講師、助教授を経て 1963 年に東京大学理学部教授に昇任され、1979 年に退官されるまで、原子核物理学ならびに放射線物理学の研究と教育に尽くされました。

1977 年からは京都大学原子炉実験所教授も併任されました。

先生が主宰された核反応物理学講座は、東京大学における原子力の教育と研究を推進するために 1957 年に発足した原子力教育研究施設の一環として理学部に置かれたもので、先生はその責を果たすべく、わが国初のタンデム型加速器の建設に取り組みました。

予算と人員の制約、建屋の不備、国産化にともなう技術的問題などから、建設はたいへんに難航したそうですが、60 年代後半からは重陽子などを用いた実験が、70 年代に入るとフッ素原子核による酸素イオンの芯交換弾性散乱など、わが国の重イオン原子核反応研究における先駆的役割を果たす研究が可能となりました。

1972 年に東京大学原子力研究総合センターが発足して野上先生が初代センター長に就任されるとともに、タンデム加速器も学内共同利用に供され、1991 年に機種更新されるまでの間、AMS 炭素 14 年代測定などを含む多岐にわたる研究に活用されました。



■ 故・野上耀三名誉教授

私が東京大学に入学した頃、駒場には原子核理論の野上茂吉郎先生 (兄上) が、本郷には原子核実験の耀三先生がおられ、どちらも仰ぎ見る存在でした。耀三先生から直接教える機会はありませんでしたが、私の机上には野上研究室の蔵書印が押された 1967 年版の Table of Isotopes があり、先生のご功績とお人柄を偲ぶよすがとなっています。心より哀悼の意を表します。

# 東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(2008年4月, 6月)

(※)は原著が英文(和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
<b>2008年4月14日付学位授与者(2名)</b>			
課程博士	化学	三宅 亮介	$\beta$ -ペプチドを鋳型として用いた金属イオンの配列制御
課程博士	生科	西駕 俊祐	シロイヌナズナにおける <i>OBE1</i> 遺伝子及び <i>OBE2</i> 遺伝子の分子遺伝学的解析(※)
<b>2008年4月30日付学位授与者(1名)</b>			
課程博士	生科	中岡 貴義	女王蜂除去群におけるセイヨウミツバチ働き蜂の脳での遺伝子発現と生理状態の解析
<b>2008年6月23日付学位授与者(1名)</b>			
論文博士	化学	中村 裕子	半導体リソグラフィにおける微細パターン形成プロセス(※)

## 人事異動報告

所属	職名	氏名	異動年月日	異動事項	備考
化学	特任教授	林 輝 幸	2008.4.1	採用	
物理	助教	川口 由紀	2008.5.1	採用	
物理	特任助教	鈴木 隆敏	2008.5.1	採用	
化学	助教	吾郷 友宏	2008.5.1	採用	特任助教から
化学	特任助教	近松 彰	2008.5.1	採用	
化学	特任助教	岡野 泰彬	2008.5.1	採用	
物理	助教	茅 元 司	2008.6.1	採用	
事務	研究支援・外部資金チーム主任	水野 裕子	2008.6.1	配置換	柏地区事務部経理担当課契約チーム主任へ

## あとがき

前号の「あとがき」で横山(央)委員から紹介がありましたように、今年度は「理学から羽ばたけ」と「発掘 理学の宝物」の2つの新シリーズが走っています。もし皆様のお近くに、「羽ばたけ」のコラムで紹介するのに適した、特色ある経歴の卒業生がおられましたら、ぜひお手近な編集委員もしくは広報室までご紹介ください。

また「宝物」の方も、それにふさわしい題材をおもちでしたら、ご提供ください。歴史的に価値のある資料や実験装置、あるいは意外に知られていない最新技術への貢献など、広く解釈していただいて結構です。必ずしも形のあるものに限定せず、「研究秘話」の類でもかまいません。

牧島 一夫(物理学専攻 教授)

第40巻2号

発行日:2008年7月20日

発行:東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集:理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会 (e-mail:kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp)

牧島 一夫(物理学専攻) maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

広報・科学コミュニケーション:

横山 央明(地球惑星科学専攻) yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

横山 広美 yokoyama@adm.s.u-tokyo.ac.jp

野崎 久義(生物科学専攻) nozaki@biol.s.u-tokyo.ac.jp

HP担当:

米澤 徹(化学専攻) tetsu@chem.s.u-tokyo.ac.jp

柴田 有(情報システムチーム) yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

渡辺 正昭(庶務係) mwatanabe@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン:

加藤 千恵(庶務係) c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp

大島 智(情報システムチーム) satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷:.....三鈴印刷株式会社